



特集

琴の名は

10月、9年ぶりに丸亀市民体育館で大相撲丸亀場所が開催されます。観音寺市は古くから相撲と縁が深く、佐渡ヶ嶽部屋を創設した初代琴錦の出身地です。佐渡ヶ嶽部屋の力士の四股名に付く「琴」の由来は、琴錦が生まれ育った観音寺市にありました。

佐渡ヶ嶽部屋力士の四股名、「琴」の名は琴弾八幡宮に由来

日本の国技・相撲の歴史は古く、『日本書紀』には、642年7月に百済の王族の前で相撲を取ったという記述が見られ、1400年近くの歴史があります。観音寺市でも江戸時代ごろから相撲が盛んで、平石七右衛門、岩の橋源太夫、浪の音武兵衛、中村豊五郎、長田菊治郎、薦田音吉など多くの名力士が生まれています。

琴櫻、琴風、琴光喜、琴歐洲、琴奨菊、琴勇輝・・・、佐渡ヶ嶽部屋に所属する力士の四股名には、「琴」の名を付けることが慣例となっています。

近年では、南町出身で佐渡ヶ嶽部屋を興した、元小結の琴錦登、西本町出身で大関に昇進した琴ヶ濱貞雄という2人の力士が活躍しました。

これは、佐渡ヶ嶽部屋を創設した初代琴錦が自身の四股名に、故郷観音寺市の琴弾八幡宮の「琴」の字を付けたことが由来となっています。琴錦は南町出身で、本名は藤村登さん。高校卒業直前に、横綱玉錦が再興した二所ノ関部屋に入所し、二所の荒稽古と呼ばれる厳しい

稽古に励み、1943年5月に十両に昇進、1944年に入幕、1953年9月には敢闘賞を獲得し、優秀力士として表彰を受けました。その後、小結まで昇進。1955年5月に引退、9月に佐渡ヶ嶽部屋を創立し、親方として後進の指導に当たりました。郷土の後輩・大関琴ヶ濱をはじめ、横綱琴櫻、長谷川、琴風など多くの名力士を育てました。

郷土の相撲復興のため、観音寺中学校と中部中学校に土俵を寄贈したほか、甥である藤村輝夫さんと協力して、琴弾公園の有明グラウンドで、観音寺場所

所属力士は「琴」の四股名が通例 佐渡ヶ嶽部屋の創設者

ことにしきの 琴錦 (南町出身)

巡業を1969年に誘致しました。

輝夫さんの長男である藤村潤一郎さん(南町)は巡業開催に奮闘する父の姿と、友人と連れ立って観音寺場所を見た記憶が60年近く経った今も残っていると話します。

「有明グラウンドに土俵が造られ、多くの力士を間近で見ました。開催前から付け人の力士が我が家の2階で寝泊まりし、随分大きな人がいるものだと子ども心に思いました。やはり、琴錦の地元ということで巡業が実現できたのだと思います」

潤一郎さんにとって、琴錦は「東京のおじさん」。東京在住で相撲部屋を経営している忙しい大伯父と会うことはなかったそうです。父輝夫さんは、琴錦と連絡を取り合い、東京、大阪、福岡と全国の本場所を観覧に行っていたといいます。

「父親は夕方 cameたらテレビにかじりついて相撲を見ていました。家にいないなと思ったら、本場所を見に出掛けてしばらく家に帰って来ないこともよくあ



琴錦登 (ことにしきのぼる)

1922年(大正11年)～1974年(昭和49年)。本名藤村登。南町生まれ。1938年観音寺商業学校(現・観音寺総合高等学校)卒業。同校卒業前に二所ノ関部屋に入門し、1944年に入幕、修練を積み、小結に昇進する。引退後、1955年に佐渡ヶ嶽部屋を創立し、大関琴ヶ濱をはじめ、横綱琴櫻、長谷川、琴風など多くの名力士を育てた。



①1972年11月場所で佐渡ヶ嶽部屋の琴櫻(初代)が優勝した際の記念写真。左が琴錦(年寄・11代佐渡ヶ嶽)、右が琴櫻(後に第53代横綱)
②琴錦の甥である輝夫さんが勧進元となり、1969年4月に観音寺場所を開催したことを示す当時の関係品

琴弾八幡宮

703年(大宝3年)3月、嵐が静まった後に、海浜に一隻の船が琴の音とともに現れました。琴の音の主は「われは八幡大菩薩である。はるばる宇佐からやってきたが、この地のあまりにも美しい風光を見て去るにはしのびがたし」と言い、人々はその言葉の主を船とともに山上に引き上げて神殿を建て、琴弾八幡宮と称えまつたといわれています。宮司は「佐渡ヶ嶽部屋の四股名の『琴』の名が琴弾八幡宮に由来しているのは大変名誉で光栄なこと」と話します。



琴弾山の山頂にある本宮



神社の秋季大祭

200年以上の歴史があるとされる伝説の土俵 大野原八幡神社の「生土俵」と「神相撲」

古くから相撲が盛んな大野原町。大砂豊五郎という江戸時代に活躍した名力士が、江戸で大関・西国茂右衛門に勝利した際に当時の相撲協会から贈られた錦の水引を大野原八幡神社に寄贈したことから、村人が土俵を建設したと伝えられています（豊五郎自身が寄進したという説もあり）。土俵建設の際、豊五郎は大関・西国に勝った時に着ていた化粧まわしを、かめに入れて土俵の下に埋めたといわれます。

通常、土俵は土を盛り上げて作りますが、逆に周りの土を掘り取り、四角形の大地を残して作った珍しい土俵で、「生土俵」と呼ばれています。毎年秋に開催される神社の大祭では、古くから「神相撲（宮相撲）」が奉納されています。



2016年に境内で田子ノ浦部屋の合宿が行われましたが、境内中央に土俵があるのは珍しいと、神相撲を観覧した親方が大変気に入ってくださったことがきっかけでした。古い伝説が残る土俵や神相撲の慣習は全国でも珍しいと思いますので、今後も大切にし、後世に残していきます。

大野原八幡神社 柘植 英憲 宮司



①境内の中央に作られた土俵 ②10月の大野原八幡神社の秋季大祭2日目には地元小学生による神相撲が奉納される。柱に張り巡らされているのが、江戸時代に大砂豊五郎が寄贈したとされる錦の水引

市内に残る、相撲が盛んな地の歴史

観音寺中学校に現存

琴錦が贈った土俵

郷土の相撲振興のため1962年に観音寺中学校と観音寺中部中学校に土俵を寄贈。観音寺中学校には現在も運動場に保管されています。



市内に残る力士の墓

大関・投石の墓

大野原町辻の長田菊治郎は「投石」という名で、江戸時代に大関として活躍。生きたクスノキの木の中にまつられた「生木地蔵尊」で有名な生木墓地にお墓があります。



「勝相撲の褒美で、地元に水を」

力士・岩の橋源太夫の功績

坂本（現・天神町）出身、江戸中期に大関として活躍。帰郷後は農業に励む傍ら、相撲を取り、丸亀藩お抱え力士として活躍。丸亀藩主から勝相撲の褒美を何にするか問われた際に財田川の水を坂本の田に引く横井（取水堰）を希望し、この用水路（現在の新井出川）の開通は地域住民の生活や農業振興に大きな影響を与えました。その功績を記した石碑が茂木浄水場敷内に建てられています。



琴ヶ濱貞雄（ことがはまさだお）

1927年（昭和2年）～1981年（昭和56年）。本名宇草貞雄。宮崎県に生まれ、幼少期に観音寺市に引っ越す。観音寺尋常高等小学校（旧観音寺南小学校）入学。1944年に海軍に入隊し、海軍相撲で鍛えた。終戦後、琴錦と同じ二所ノ関部屋に入門、その後、琴錦が興した佐渡ヶ嶽部屋へ移籍。1958年に大関に昇進する。1962年に引退、年寄尾車として佐渡ヶ嶽部屋を支えた。



①観音寺駅前の琴ヶ濱凱旋パレード（1958年）②巡業後の実家での宴会風景。前列右から2人目が琴ヶ濱。4人目が琴錦③絹の刺繍を施した化粧まわしは約15キログラムの重厚な品。昔から宇草家と交流がある白井富太郎さん（南町）は琴ヶ濱の功績を伝えるため、過去に地区公民館で展示を開催④海岸寺（多度津町）山門には仁王像の代わりに琴ヶ濱の像が建っている



「南海の黒豹」と呼ばれ、大関まで登り詰めた

琴ヶ濱（西本町出身）

大関として、日本相撲界の歴史に名を残す琴ヶ濱。宮崎県で生まれ、幼少期に西本町に移り住みます。子どものころから草相撲で活躍し、県下少年相撲大会で団体優勝しました。高等科卒業時は第二次世界大戦の最中で、海軍に入隊。終戦後は帰郷し家業を手伝っていました。スカウトされ、琴錦の所属する二所ノ関部屋に入門することになります。四股名は琴錦の「琴」と、故郷の美しい有明浜の砂浜から「濱」の字を取って「琴ヶ濱」と付けました。

妹の宇草福子さん（西本町）は、「6人兄妹の長男で無口な

兄でした。体があまり大きくなかったので苦労したと思います。稽古を見学しに行こうと思っただけで、『見に来るな』と言われました。昔は今より指導が厳しかったので、心配を掛けたくなかったのではないでしょう」と話します。

昔は琴弾八幡宮十王堂でも相撲巡業があり、巡業後は実家に帰ってきたといひます。

「急に一人で家に帰ってきて、驚いた母に『母の作る』ばら寿司、食べに帰って来たんや」と照れ隠しで言っていました。忙しくてほとんど帰って来られなかったので、地方巡業は良い機会だったのかもしれないね」

盛りに立ってました。

琴ヶ濱の化粧まわしには、銭形砂絵と琴弾公園の松、懸灘の波が描かれています。故郷の家族と風景が、琴ヶ濱を支え続けていたのかもしれない。

イベント

丸亀場所 1 カ月前にイベントを開催。子ども泣き笑い相撲や、佐渡ヶ嶽部屋の元ちゃんこ長が作るちゃんこの提供があります。

日時 9月23日(月・休)
午前11時30分～午後3時ごろ

会場 丸亀市民体育館

料金 無料 (ちゃんこ有料)

内容 ぶつかり稽古、赤ちゃん力士泣き笑い相撲 (申し込み時生後半年～1歳半対象)、荒磯親方トークショー、佐渡ヶ嶽部屋名物ちゃんこ販売

出演 荒磯親方、佐渡ヶ嶽部屋所属力士2人

申し込み 観覧は申し込み不要。赤ちゃん力士泣き笑い相撲参加者は申し込み要。

申し込み受付開始
9月5日(木)午前10時～

申し込み・問い合わせ先
(公財) 丸亀市福祉事業団事務局
☎0877-23-1091

チケット料金

<1階席>

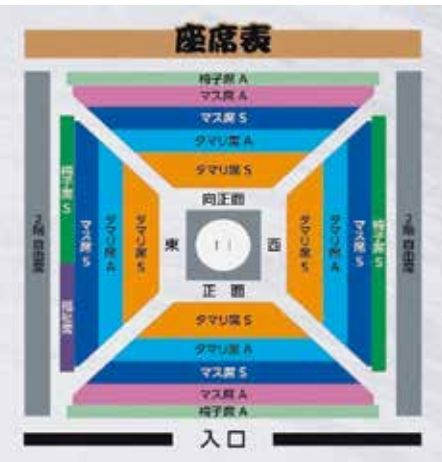
■タマリ席(S) 15,000円(1人席)
■タマリ席(A) 12,000円(1人席)
■マス席(S) 20,000円(2人席*)
■マス席(A) 16,000円(2人席*)
■福祉席* 16,000円(2人席*)

<2階席>

■自由席 5,000円(1人席)

※2人席は2人分の料金です。福祉席は車椅子・付き添い者の2人席

※1階の椅子席(S)、椅子席(A)はチケット完売



故郷の皆さんに相撲の魅力を感じてほしい



佐渡ヶ嶽部屋
荒磯親方
元関脇 琴勇輝
小豆島町出身

本場所とは違って、お相撲さんをより身近に感じられるのが巡業の魅力。テレビでは伝わりにくい力士の馬力と馬力がぶつかり合う強さを体感していただきたいです。佐渡ヶ嶽部屋では「琴」という字に「今に王になる」という出世の願いを込め、ずっと大切に守り続けてきました。今回の丸亀場所、その字の由来の地である観音寺市の皆さんをはじめ、地元香川県の方に相撲の魅力を感じていただきたいと思います。当日は力士にも気軽に声を掛けてくださいね。

力士との距離の近さが巡業の魅力



佐渡ヶ嶽部屋
大関 琴櫻

巡業は朝稽古などもあり、力士と触れ合うこともできる距離の近さが魅力です。観音寺市は佐渡ヶ嶽部屋の「琴」の名前の由来のご縁がある場所ということで、丸亀場所、皆さんに喜んでいただきたいと思います。琴の四股名は祖父、父とも力士である私にとって、生まれた時からある身近な名前です。佐渡ヶ嶽部屋の伝統を受け継ぎこれまでやってきたので、今後もそれを引き継いでいきたいと思います。



- Q** 子ども連れでも参加できますか
A もちろん大丈夫です。3歳未満のお子さんは家族の膝上であれば観覧料不要です。
- Q** 2階席からも楽しめますか
A 2階席は、会場全体が見渡せて見やすいエリアです。長時間の床座りが難しい人やお子さん連れの方には特におすすめの席です。
- Q** 食事場所はありますか
A お弁当を販売するほか、会場外にはキッチンカーも(予定)。両国国技館で販売しているお菓子などの相撲グッズも販売予定です。

チケット販売場所

<一般>

観音寺市民会館 (ハイスタッフホール)
三豊市文化会館 (マリンウェーブ)、丸亀市生涯学習センター、丸亀市綾歌総合文化会館アイレックス、丸亀市民体育館、丸亀市飯山総合学習センター、高松国分寺ホール

<インターネット>

チケットぴあ (Pコード: 859-583)
ローチケ (Lコード: 62681)

問い合わせ先 (公財) 丸亀市福祉事業団事務局
☎0877-23-1091



大相撲丸亀場所を楽しもう

大相撲の興行は、本場所と巡業の二本立てで成り立っています。本場所は年6回、東京、大阪、名古屋、福岡の大都市で開催されますが、本場所のない時期、全国各地で巡業があり、力士は相撲の普及やPRを行っています。

緊張感のある本場所とは違い、巡業中、力士はリラックスして写真撮影やサインに応じてくれます。巡業は、稽古や相撲甚句(七、七、七、五の句で構成される代表的民謡の形式で独特の節回しの歌)の披露や初っ切り(相撲の決まり手やルール、禁じ手を面白おかしく滑稽な動きで表現する余興)のほか、普段はテレビでしか見ることできない幕内の取り組みを観覧することが出来る貴重な機会です。9年ぶりに開催される丸亀場所、相撲や力士に親しんでみませんか。

大相撲 丸亀場所

日時 10月23日(水)午前9時～午後3時

会場 丸亀市民体育館 (丸亀市金倉町9-2-4番地1)

内容 午前9時 開場～公開稽古

正午 幕下以下取り組み～髪結い、初っ切り、相撲甚句、太鼓打実演など

午後1時半ごろ 幕内・横綱土俵入り、幕内取り組み

午後3時ごろ 打ち出し(終了)

主催 公益財団法人丸亀市福祉事業団



丸亀場所
特設サイト

